

閑談 千里山会創立まで

十四回生 柿崎眞吾

千里山会が創立二十周年を迎えたことに、心からのお喜びとお祝いを申し上げます。

二十年前一九九七年に千里山会の創立総会が挙行されましたが、それに遡ること四半世紀以上も前のこと一九七一年に千二の東京に於ける初めての同窓会が、新宿で産声をあげています。

それから創立総会までの長い期間をご存知ない方も多いいと思いますので、私の記憶にあることをまとめてお話しさせていただきます、今日の記念総会の座興になれば幸いです。

大阪に千二同窓会は元来無かったので、当然関東支部的な発足をしたものではありません。東京近郊在住の戦前の卒業生ばかりでなく転勤族の多かった千里山での在学経験者も加わり、「千二校同窓生の集い」が今から四六年前一九七一年に、新宿で二六名の熱い千二校への思い入れにより東京では初めての

集まりがありました。さらに二三年の時を経て一九九四年に池袋で三三名による東京同窓会が復活し、翌年九五年度の銀座では七五名と一気に戦後世代に参加者が拡がりました。

復活後二年続いたので、毎年催行の上昇気運が感じられたことから、次の復活後の第三回目の同窓会は本格同窓会の組織づくり、その翌年は正式会名による創立総会を展望する時がやってきました。

三段跳びには「助走・ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」とありますが、助走を新宿での「千二校同窓生の集い」とし、着地を「千里山会創立総会」とさせてもらいます。その間の復活第一回く第二回については、ひよんな出会いから私が暗中模索していた一・二回目のホップ・ステップを12回生福山博寿氏と14回生宇野(田中)博氏、三回目のジャンプは9回生飯島泰蔵氏を中心に思い出すままお話をさせていただきます。

それでは一九七一年の**助走**がこれから始まります。
9回生藤田 田・宇野降造・疋田敬一郎 12回生福山博寿 14回生三笠洋一・三分一克美・宇野(田

中）博の七名（現在一名 三分一氏）の方々が集まって、同窓会開催のため東京近郊在住者の名簿作成に取りかかりました。知りうるかぎりの在住者からの情報、母校、千里山、その他縁故を辿って卒業生・在学経験者四〇名の名簿作成に成功された。ご努力に敬意を表します。

この新宿での「千二校同窓生の集い」には二六名の方々が馳せ参じ、この旗揚げには9回生を筆頭に大きな古時計の作詞者13回生保富康午氏、今日の同窓会にご出席の11回生平井（三谷）万里子・岡村（河合）貞子両氏の名もあります。出席報告されていた18回生南部（糠澤）敦子氏が、直前に都内の交通事故に巻き込まれて亡くなられたのは、国民的に人気があった方だけに痛恨事でした。

助走期間が長かったのは、時代が高度成長期の真っ只中、殆どの方が四十歳代の働き盛りの年代層で、次回の集合を掛けるのが難しかったでしょう。

一九九三年の秋晴れの日、道玄坂を歩いていき前掲七人の一人フクヤンこと12回生福山博寿氏にバツタリ出会いました。二年先輩で家は至近の距

に頼んどいたら用意しといてくれるやろ」いつもの芝居の練習のときがそうなのか・・・戦前の二年先輩は今と違って重みが違います。不安とやる気の交錯した複雑な思いでした。

これからが私の仕事となり二か月間を前述の名簿を使って先ず三十名に案内状を出し、電話とFAXを駆使して、いよいよ当日を迎えました。

一九九四年七月二九日は、運悪く開会一時間前から夕立が降り、会場も分かり易い場所とは言えず、暗然とした気持ちで入口に立っていました。それでも幼顔をのこした覚えのある男女の方が次々と会場へ入ってこられ、開会時間にはなんと三三名の方の来会に安堵で胸が熱くなりました。16回生清水健至・17回生宮中 博・18回生片山 章の諸氏がサポートしてくれました。

8回生から18回生までの在学された時代と言えば、昭和六年満州事変から十二年支那事変・十六年大東亜戦争・二十年敗戦・二十二年平和憲法までの時代で、学校名は千里第二尋常小学校・国民学校時代に少年少女時代を過ごした方々です。混乱と貧困でボロボロになった明治以来の近代国家の結末を千里

離で育ちましたから知り尽くした間柄です。奄美大島出身のご両親の血筋から独特の風貌と声量があり、関大では演劇部に所属していました。三十年ぶりに会った時はすでに劇団人福山象三の芸名で「網走番外地」「水戸黄門」「暴れん坊將軍」など悪役で出演してましたが、年を経て好々爺の役柄も目に付くようなられました。

この出合いが同窓会復活の踏み切りになるとは全く思いもせず、聞き覚えのある太い声の大阪弁で、「長いこと千二の同窓会やってへんねん。久しぶりにやっつたろう思てんねんけど手つとうてくれへん？」

「へえー、ええことですねー、僕でよければ・・・」からはじまり、翌年の一九九四年の晩春にフクヤンご指定の会場の下見となりました。池袋の西口、芸術劇場の横を通って数分のところ。こじんまりした貸しビルの地下一階に案内され、そこは芝居の練習小屋らしく、薄暗いガラシとした部屋に裸電球がいくつか燈され、真中に小さなグラランドピアノがぼつんとあるだけ、「二十人は大丈夫やで」との話しに「食べ物や飲み物は？腰掛とか・・・」「うん、おばさん

山で体験された人達で、東京に在って同窓会の開会を希求していた思いに溢れた同窓会でした。終始興奮気味で最上級生の伊藤（宍戸）清子さんが「わたしピアノ弾いたげる」の声に男子は「廣瀬中佐」女子は「婦人従軍歌」そして皆でスコットランド民謡の旋律をとった「仰げば尊しわが師の恩」を合唱して御開きとなりました。

こうして長い助走のあとの東京同窓会が賤の馬小屋でホツプし復活しました。思う存分に語って飲んであとお決まりの「来年また会おう！」でしたが年が明けて夏が近づいても、翌年の幹事を決めないで散会していたので手が挙がってきません。しかし「誰かやってくれたら必ず行く」という雰囲気はありました。

一九九五年は私が前年進行係を務めた手前、夏が過ぎると気になり、まずはフクヤンに電話したところ「この秋はアマデウスの巡業で回るさかいきみたちのむわ」「モーツァルトですか、どんな役やりはんの？」「コックさんや・・・これで芝居小屋はないな・・・よし、同期の宇野（田中）に相談しよう、先の七人の発起人の一人で、銀座一丁目にたしか会

席座敷をもっているはずだ。ここで14回生京博会長田中博氏を訪ねて持ち掛けたところ「まかしとけ！」に勇気づけられ、社長18回生片山章の両氏で全面的に肩入れしてくれて、同窓会は初めて二年連続催行となり**ステツプ**したのでした。

しかし、定員五四人の座敷に閑古鳥が鳴いてはと朝日・読売の無料の同窓会三行広告も利用し、また学年の情報通らしきお方へ働きかけたりして、直前には全体申込み人数が七五名になって吃驚仰天し、急遽館内の小和室を借りて二室運行に汗顔陳謝し、6〜17回生五五名と、18〜35回生二十名に分け、開会と閉会は一室に会して別室代表の挨拶を18回生寺澤美代子氏に頼んで復活第二回目の東京同窓会が進行しました。

当日の最上級生で日本の木管楽器奏者コボンチャンこと6回生井上敬三氏が畳の上で「ふるさと」をアルトサクソで聴かせてくださったのも忘れられません。逝去なされた時は惜しまれて五大紙全地方紙に掲載されました。また9回生藤田田氏の豊富な史料による「千里の地名の由来」の解説は、後年総会時での講演の先例となりました。遠くは仙台や大

りました。8回生武蔵宏・9回生飯島泰蔵・10回生平一秀の三氏連名によるお願い文をOB・OGに発送し百名に近い賛同者により六十万円余の額が集まり、その後の会の運営を支える運転資金が確保されました。会計職務には戦時中に隣組同士の18回生白鳥撰子氏にお願いしました。

これに先立ち規約原案では「幹事会・会長制」か「世話人会・世話人代表制」かの検討があり、後者とすることを決めて発足し、総務責任者の私は主な会務の会計・会員（名簿）・会誌等を総括し、世話人代表と連携して総会の開催運行の実務を担う。

第三回東京同窓会はアサヒビル経営の銀座あしべホールで八七名出席のもと規約原案が承認され、世話人代表に飯島泰蔵氏を選任し、新しい会名の公募を実施、11回生伏見千瑞子氏が提案の「千里山会」が決まり、合唱同好会は千里山会合唱隊として総会に花を添えることになりました。会誌の刊行では17回生高橋一三氏に助力をいただきました。

同窓会は親睦を目的とすることに変わりありませんが、毎回完結型を解消して発展的に組織運営型に移行する体制が整った年になりました。

阪、関東近郊からの参加に千二校ならではの絆と熱気を感じたのと、前回までの戦前卒業生の仲良し俱樂部から一挙に昭和三十年代までの戦後世代の卒業生にまで大きく拡がったのには感動しました。しかしその後直ぐに福山博寿氏、次いで17回生美川英二氏が横河電機の現役社長で急逝され惜しまれました。さて気運は上向きで毎年催行となると、これまでの毎回完結型では無責任な同窓会になりかねず、先ずは翌年のことを考えながら諸々の体制を整えなければならぬ、組織運営が欠かせなくなっている、こういう時は先賢に聞くに限る、まずはカイゼル髭の9回生岸副（妻木）恵介氏を私宅に訪ね「何方か先輩で適任者を教えてください」と申したところ言下に「9回生飯島泰蔵が最適任や」との言葉に元気づき以後は何事も師事することにいたしました。東京工大名誉教授で勲三等工學博士「ボケの理論」の開発者と申しても身近な郵便番号の読み取りもその一端と言うと解りやすい。国立先端科学技術大学院大学副学長、私などは世界の異なる大先輩で千二校には並々ならぬ愛着の持主です。

一九九六年の**ジャンプ**の年は基金の募集から始ま

一九九七年十一月十五日 千里山会創立総会

会場は銀座ライオン 6階ホール

着地の時がやってきました。出席者一〇八名の名簿は32回生藤本（古川）道子氏、会場担当は24回生奥田陽一氏・26回生服部（児玉）絢子氏・27回生萩原直大氏ほかに多くの方々にご協力いただきました。

飯島世話人代表の挨拶と総務責任者の経過報告につづいて、大阪音大名誉教授 6回生藤井（柳父）幸子氏の祝辞と乾杯、17回生友野信善氏指揮による合唱隊の演奏で、千里山会創立総会の祝会がスタートしました。

了